

第3学年 英語科学習指導案

1 単元名 Lesson 5 Stevie Wonder 'The Power of Music' (TOTAL ENGLISH EDITION 3)

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、スティービー・ワンダーの伝記で、タクが聞いているラジオ番組で流れている英文という設定になっており、過去形などを用いてスティービーがしてきたことを具体的に説明する英文が時系列に並んでいる。生徒たちは、2年生で *I Just Called to Say I Love You* を授業で歌うなど、スティービーに関しての若干の知識はもっている。今回、改めてスティービーが自ら障がいをもちながらミュージシャンとして偉大な成功を収め、さらに、様々な困難に苦しむ世界の人々を救うための活動に積極的に取り組んだことを知り、これまでとは違った思いをもつと思われる。

新出の言語材料としては、主格の関係代名詞 (who / which / that) が登場する。前の単元で分詞の形容詞的用法を用いた名詞句について学んでいるが、分詞とは違い主語と動詞が含まれる節構造になるので、主節の動詞と関係代名詞節の動詞との区別を考えるなど、英文の基本的な構造や語順を改めて考える機会になる。関係代名詞を用いることで1文に多くの情報を盛り込み、比較的長い文を産出できるようになる。3年間の集大成として英語力の成長を実感させ、今後も続く英語学習への架け橋としたい。

(2) 生徒観

授業中の様々な活動、特にペアでの言語活動に積極的に取り組むことができる。自分の意見や気持ちを臆せず表現しようとする姿勢もある。英語の授業が「好き」または「まあまあ好き」と答えた生徒が79%と、意欲的な生徒が多い。

(3) 指導観

本単元を含むChapter 3では、「大切な人や尊敬する人について、まとまった文章が書けるようになること」が目標となっており、章末のゴールとして、既習の表現を用いて実際に自分の大切な人を紹介する英文を書く言語活動が設定されている。また、3年次の最終ゴールとして、「わたしの人生」と題し、中学校での英語学習で習得してきた様々な表現を使って、自分のこれまでの歩みとこれからの人生設計についてまとまりのある英文を書くことを設定している。本単元の伝記は、章末のゴールや最終ゴールのモデル文となる。下記にある3種類の発問（事実発問・推論発問・評価発問）を工夫して行うことで、本文の内容をしっかりと読み取らせ、教科書のモデル文を超えた深みのある内容を産出させたいと考える。

3 単元の目標

- (1) ペアワークやグループワーク、クラス全体の活動において、間違いを恐れずに積極的に自分の考えを伝える。
- (2) 主格の関係代名詞 (who/which/that) を用いて、人物や身の回りのものについて詳しく述べる。
- (3) 教科書の本文を聞いたり、読んだりしてその内容を把握し、情報をまとめる。
- (4) 自分の考えや気持ちを英語で正しく書く。

4 評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
ペアワークやグループワーク、クラス全体の活動において、間違いを恐れずに積極的に自分の考えを伝えている。	自分の考えや気持ちなどを英語で正しく書くことができる。	教科書の本文を聞いたり、読んだりして正しく理解することができる。	主格の関係代名詞（ who/which/that ）の運用についての知識を身に付けている。

5 単元計画（全8時間 本時6／8）

時間	○ねらい ・学習活動	評価規準	評価方法
1	○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ・ Stevie Wonder に関する Teacher Talk や QA を通して、情報を整理する。 ・ Stevie Wonder の代表曲である <i>Isn't She Lovely</i> を歌う。	ア	行動観察
2	○主格の関係代名詞 who の文の形・意味・用法を理解する。 ・ 主格の関係代名詞 who を用いた文の構造を知る。 ・ 主格の関係代名詞 who を用いて、身近な人について説明する。	エ	後日ペーパーテスト
3	○主格の関係代名詞 which を用いた文の形、意味、用法などを理解する。 ・ 主格の関係代名詞 who を用いた文の構造を知る。 ・ 主格の関係代名詞 which を用いて、身の回りのものについて説明する。	エ	後日ペーパーテスト
4	○主格の関係代名詞 that を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・ 主格の関係代名詞 that を用いた文の構造を知る。 ・ 主格の関係代名詞 that を用いて、身近な人や身の回りのものについて説明する。	エ	後日ペーパーテスト
5	○Mapping（ワークシート1）を行い、その内容について大まかに理解する。 ・ 教科書本文全体を読み、Mapping を用いて情報を整理する。 ・ Mapping を見ながら、口頭による本文の Reproduction を行う。	ウ	ワークシート
6 (本時)	○教科書本文全体を通して、Stevie Wonder の人生のタイムラインを作る。 ・ ペアで協力しながら Stevie Wonder の人生のタイムラインを作る。 ・ ペアで協力しながら Stevie Wonder の代表曲がタイムラインのどの時期に作曲されたものか推測する。 ・ グループで各ペアが作ったタイムラインを紹介し、そう考えた根拠を説明し合う。	ウ	ワークシート
7	○自分の考えや気持ちを表現する。 ・ 「あなたにとって音楽とは？」という質問に4文以上の英文で答える。（ワークシート5）	イ	ワークシート

8	<p>○教科書本文全体を読み，再度 Mapping（ワークシート1）を用いて本文の Reproduction を行う。</p> <p>・第5時に作った Mapping に新しい情報を加えたり，修正したりする。</p> <p>・ Mapping を参考に Reproduction を行い，さらに Stevie Wonder の生き方について自分の意見を加える。</p>	イ	ワークシート
---	--	---	--------

6 本時の目標

Stevie Wonder の曲の歌詞に込められた思いを読み取り，タイムラインと照らし合わせ，いつ作られたかを根拠を明確にして推測できる。（外国語理解の能力）

7 展開（ 事実発問 ・ 推論発問 ）

過程	学習内容及び 学習活動	○教師の指導・支援 ●活動が十分でない生徒への手立て	評価方法
導入	<p>1 あいさつをする。</p> <p>2 歌 (<i>Isn't She Lovely</i>) を歌う。</p>	○英語の音，リズムに慣れさせ，雰囲気を作る。	
展開	<p>3 本時の活動の内容を知る。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めあて：Stevie wonder の人生のタイムラインを作ろう！</div> <p>4 Lesson 5 の本文全体を音読する（ワークシート2）。</p>	○本時の活動について説明をする。 ○Lesson 5 全体の話の流れをつかませる。	
	5 Timeline Making①	○本文内容を基に，ペアで協力しながら Stevie Wonder のタイムライン（ワークシート3）を作成する。	ワークシート
	6 Timeline Making②	○Stevie の代表曲4つの歌詞（ワークシート4）を配付し，それぞれがタイムラインのどの時期に作られたものなのか，理由も含めてペアで推測させる。 ●机間指導を行い，キーワードや単語の意味を与え，根拠を考えるように指示する。	ワークシート
	7 Sharing	○グループの中で各ペアのタイムラインを発表させる。その際に理由を明確に言わせる。	
	8 Checking Answers	○電子黒板でタイムライン及び曲の答え合わせを行う。	
まとめ	9 次時の学習内容を知る。	○次時の学習内容を確認し，準備を促す。	

8 本時の評価

評価規準	ペアで Stevie Wonder の歌詞を手掛かりにその曲が作られた前後の出来事や Stevie の心情を考え、その曲がタイムラインのどの辺りで作られたのかを、根拠を明らかにして推測している。（外国語理解の能力）		
判断する目安 （判定基準）	十分満足できる状況（A）	おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況（C）
	Stevie Wonder の曲の歌詞を手掛かりに根拠を明確にし、タイムラインのどのあたりで作られたのかを推測している。	Stevie Wonder の曲の歌詞を手掛かりにタイムラインのどのあたりで作られたのかを推測している。	（B）に達していない記述
→（B）、（C）と判断した生徒への支援		→ペアでの話し合いを促したり、辞書を用いたりするように指示する。	→キーワードや単語の意味を与え、根拠を考えるように指示する。
評価方法	ワークシートの記述		